

事例番号:350111

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第二部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 41 週 0 日

12:23- 妊婦健診のため受診、胎児心拍数陣痛図で軽度および高度遅発一過性徐脈をくり返し認める

14:30 分娩誘発のため当該分娩機関入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 41 週 1 日

5:53 陣痛開始

8:35 微弱陣痛のためオキシトシン注射液投与開始

13:00 頃- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動の減少を伴った軽度および高度遅発一過性徐脈を認める

14:22- 胎児心拍数陣痛図で子宮頻収縮を疑う所見を時折認める

20:37 頃- 胎児心拍数陣痛図で 110 拍/分を下回る徐脈を認める

21:31 胎児機能不全の診断で帝王切開により児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:41 週 1 日

(2) 出生時体重:4000g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 6.64、BE -25.1mmol/L

- (4) Apgarスコア:生後1分3点、生後5分7点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)、気管挿管
- (6) 診断等:

出生当日 低酸素性虚血性脳症

- (7) 頭部画像所見:

生後30日 頭部MRIで多嚢胞性脳軟化症の所見

## 6) 診療体制等に関する情報

- (1) 施設区分:病院

- (2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医6名、小児科医1名

看護スタッフ:助産師6名、看護師1名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠40週0日以降、妊娠41週0日の受診より前に生じた胎児低酸素・酸血症が出生時まで進行し低酸素性虚血性脳症を発症したことである。
- (2) 胎児低酸素・酸血症の原因を解明することは困難であるが、胎盤機能不全および子宮頻収縮による子宮胎盤循環不全の両方の可能性を否定できない。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

- 1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

- 2) 分娩経過

- (1) 妊娠41週0日、予定日超過のため分娩誘発目的で入院管理とし、分娩誘発について文書を用いて説明し同意を得たことは一般的である。
- (2) 入院時の対応(分娩監視装置の装着)は一般的である。
- (3) 妊娠41週1日、微弱陣痛と判断し陣痛促進を開始したことは選択肢のひとつである。
- (4) キシリン注射液の開始時投与量は一般的であるが、増量したことは基準を満

たしていない。

- (5) オキシシ注射液投与中の分娩監視方法(連続的に分娩監視装置を装着)は一般的である。
- (6) 妊娠 41 週 1 日 13 時 00 分頃より胎児心拍数陣痛図で基線細変動の減少を伴った軽度および高度遅発一過性徐脈を認める状況で 20 時 40 分に胎児心拍数波形レベル 4 またはレベル 5 と判断し、オキシシ注射液を中止し、1 分後に帝王切開を決定したことは選択肢のひとつである。
- (7) 緊急帝王切開を決定してから 50 分後に児を娩出したことは一般的である。
- (8) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (9) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(「事例の経過についての確認書」によるとバッグ・マスクによる人工呼吸、および気管挿管)は一般的である。
- (2) 低体温療法の適応のため高次医療機関 NICU に搬送したことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」を再度確認し、胎児心拍数波形レベル分類に沿った対応と処置を習熟し実施することが望まれる。
- (2) 子宮収縮薬(オキシシ注射液)の使用については「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」に則した使用法が望まれる。
- (3) 胎児心拍数陣痛図には、子宮収縮波形も正確に記録されるよう、分娩監視装置のプローブを正しく装着することが望まれる。

【解説】陣痛記録は徐脈の種類、子宮頻収縮・過強陣痛を評価するために重要である。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

- (1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。